日御碕神社の建築の紹介

現在の社殿は優美な権現造と目を見張るような朱の木造建築で、徳川将軍家光（1604 年- 1651 年）の命令により、1634 年に建設が始まった。1644 年に完成した境内には、天照大御神と須佐之男命（素盞嗚尊）の両方の社殿があり、宗教的な重要度が高いことから非常に手間をかけて作られている。内壁は特に豪華で、天井と壁画に狩野(かのう)、土佐(とさ)両派の画匠による絵が描かれている。内壁は通常は一般公開していないが、本堂のひさしの下の彫刻など鑑賞できるものは十分にある。各装飾にはユニークな動物が描かれており、日沉宮（天照大神が祀られているお宮）の後方左側には、有名な「見ざる聞かざる言わざる」の三匹のサルもある。神社には元来は陸から来る参拝者用の南側と、海から来る参拝者用の西側の、ふたつの入り口があった。